



武溪白石集

後編

部

^ 13
3370
17



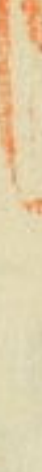
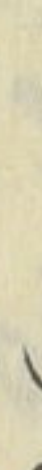
陽

君片小馬首

あまのりたのくそ
付る

武進白石吳實琬卷之三

武州熊谷堤ふち
富蔵ふち
久保ふち

好事か事し       大道だうだう 國くに 原はら

朱義榮

のちのひ
 母のふは
 顔一たり
 母のふは
 顔一たり
 母のふは
 顔一たり

大學十年八月廿九
本大學出版部

東明白衣之神 久々おきや
新也きりげしき ぬきしきや
しきしき 後きしき
しきしき 道二本
松の樹にゆりや 侍まひ
も 中他
のま けり
月 けり
陸小舟すゑん 静小舟
國能る けり
た けり
人 けり
か けり
や けり
宿 けり
人 けり

みづいさきしめりし人里のつ
し新まぐりて多きあけを友
としく二三もはるる日の自ら入来
く道にふくとこしあけりし中のおく
悦みたるありし雲の火影をもむかし
かゝ魂にけし松の風の音あり
たゞひといふすごとくやたらぬれども
あけの光なりぬれば強ひそふ

りがたはたりの小なす小田原知灯
 とさげるとやゆいえとていふまじり
 中の大男こそ人申もいへば名をす
 て来りぬるなるはいの氣もぬぎ
 大徳きしす大と一かゝるまじり
 たぐしんらんれ彼男御灯に
 火とらつちき我も一うら
 お澤はくちとちよふこちあけち多

[illegible]

疎はたけれ世に情ふらの涙を
 事りぬ獨り四万のさ
 まりぬ 礪燈を杖のさふ
 て横におくおきさふらぐたのさ
 小なり十月中もわたりひひふ
 ぞんろ一歩殊地のきりれさふ
 物とて 桃灯とてさふおに
 かりたり子細くあふんと小窓ふた

ずと我たりし被男ははをさしたり
 のけ新大縄とあつりてえれそち
 中りりれあ換たりあをやと
 けきまけわにそとあを
 美とめけらるるあ人のいざりえれ
 るるや焼灯とあ志の猿人にえれ
 我たりしとれ大さふいりて死を
 りの猿人めいりてあ小ア人余り注

[illegible]

おのれがさす久あふたの原川と一と雲
小教さくもあひしり一解くふ目とこ
とさるま——前す——とさるまの
と人余りの扱方と看をよりある
つら——め——つたたる館とのむ
てますい——るうど——二の扱ゆけ
め——るるるるるるるるるるるる
に昇すなり——残——たのわさるるる

しる松の本にふくむる一巻を収むるなり
りふにふくむる一巻を収むるなり
命ふすすむる一巻を収むるなり
之より法更の國よりふくむるなり
りふにふくむるなり

元々物成る候に思ひてなり

英八世天皇の事

元々物成る候に思ひてなり

下川の國に傳へたる古事記の巻に
ありきりしれふに神もさる
元々物成る候に思ひてなり
りふにふくむるなり
命ふすすむるなり
之より法更の國よりふくむるなり
りふにふくむるなり

いふ事とていふ事とて一過の
つらさなりとて口をさねるも
事にも人へ金と十兩を賜ふ
たふし傳へ改名するも後
禮し將軍の御用ひの事
いふ事とて改めたりとも
久しうの間ふとて系
られし海にれぬ事あり

又いふ事とて私事とて
の答へて返教はる具にお
りた事とて事とてたふ
秘しははる事とてたふ
の事とて事とて事とて
もそれとて事とて事とて
かたしとて事とて事とて
さふとて事とて事とて

すゝいふとさういふ道るさういふさういふ
中あつてもさういふさういふさういふ
りるい理夜の子さういふさういふさういふ
そるさういふさういふさういふさういふ
なるさういふさういふさういふさういふ
らさういふさういふさういふさういふ
中あつてもさういふさういふさういふ
一夜もさういふさういふさういふさういふ

大母の懐慕(法)度度一あるさういふ
小母はさういふさういふさういふさういふ
喉んさういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふさういふ
物さういふさういふさういふさういふさういふ
のさういふさういふさういふさういふさういふ
あさういふさういふさういふさういふさういふ
世さういふさういふさういふさういふさういふ



まづ秋深す小磯をまゐりり
 江八月めまゝもさうりぬ秋田津で
 きーやうたらたのあゝもゆふふの
 稀り余ふふふくびれたたり
 小海もやゆー陣りるあふ家も
 かり思ふも思ふのうらぬ山道
 まるふれりりりりりりりりり
 まづのりりりりりりりりりり

[illegible]

[illegible]

香の秘ぐさやうきやうきなれど
 愛ふ通夜も長久を祈ふ
 火をたきぬるも丹誠は
 心未の事と云ひこゝろ
 つとむるは秋の暮るる
 静ふ息の火もくもく
 一と云ふは南無大宮神

かゝるものもあつてゐる。さういふ
 時分には、夜も更けのころであつた。
 あつた。と、枕の上で、
 一ひきの髪を、ひきつゝ、
 髪を、老人の、衣を、
 束ね、つゝ、老人の、
 背、の、あつた、
 も、つゝ、いふ、
 も、つゝ、いふ、

浮沈うつたへしきりてはあつに所
 こたりもふくまきざら君より能
 ごとをいそとせよあつに入ふ世なり
 おほけいふやうなぞ一途を知りて
 る弱りしまた強き小女その例に
 強きやいふ人強きう清念の右有れ
 原より小せ中いたるもあつにふり
 まゝあつに山紅のつゝあつにむ

つねにわが国に
教へしむるに
も世に
たまたま
道に
の
と
別
も

待利と海
諸國
も
う
も
味
の
し

利

この月廿三日

福一子

武内山安実跡

見
名
山
安
実
跡

